材料科学特論Bレポート

10999588 中野　英之

nakano@muroran-it.ac.jp

　物性値として○○○に着目し、加熱したり冷却したりすることによって、○○○が図１のように変化する物質を見出したとする。この物質は、△△△に応用することが出来ると考えられる。すなわち、この物質をこのような場所にこのように設置しておくと、こうなったときにこうなって、こうなったときにこうなると考えられ、こういうことに有用であると考えられる。

図１．物性値Ｘの温度変化

　△△△に応用するにあたっては、このような（具体的な数値を記載）温度（範囲）で使用できるようにする必要があり（あるいはこのような温度で使用できることが望ましい、などなど）、また、物性値○○○はこういうことが可能であるように、このような値とこのような値の間で変化する必要がある。したがって、各温度はT1 =□□ °C、T2 =□□ °C、T3 =□□ °C、T4 =□□ °C、○○○はX1=◎◎、X2=◎◎、X3=◎◎、X4=◎◎となるのが望ましく、今回見出した物質を改質して最適な特性を示すように開発を進めていく必要がある。さらに、実際に使用するにあたっては、このような要請があるため、こんな特性を付与していく必要がある。（以上はあくまで例ですので、この通りである必要はありません）